

BIP 2025夏通信

今回の内容は・・・

-  ファイナンシャルコラム
-  金利について知る
-  ドルコスト平均法を知る
-  熱中症を知る



Financial Columns

香川県がまるごと!?

昨年1年間に日本で生まれた子どもの数は約68.6万人。はじめて70万人を下回り、過去最低を更新したようです。一方、去年1年間に死亡した人の数は前年から3万人増えて、約160.5万人でした。こちらは逆に過去最多を更新しました。その結果、死亡した人から生まれた子どもの数を差し引いた人口の減少幅は、91.9万人になります。過去最大ペースで人口減少が進んでいます。91万人は香川県の人口とほぼ同じ規模です。つまり、毎年、香川県の人口と同等分、丸々人が減っているのです。今の状況で人口を増加させることは難しいため、人口減少を前提にどうするかが重要です。円資産だけでなく、一部海外資産を保有することも対策のひとつと言えます。

情報からは逃げられない・・・

屋外や店頭、交通機関などあらゆる場所で目にする、デジタルサイネージ。映像などが流れる、いわゆる電子看板です。日本における先駆けは、1980年代に新宿アルタの壁面に掲げられた通称「アルタビジョン」です。当時は画期的な広告媒体として大きな話題を呼びました。あれから40年、いまや満員電車やタクシーの車内、駅構内など、人の視線の争奪戦はますます激化しています。都心部ではトイレの個室にまで、ディスプレイが配置されています。市場規模はここから5年でさらに2倍になるというデータもあります。もはや日常のあらゆる場面で、情報から逃げられない世の中になっているのかもしれない。



金利上昇で起こる影響

- 預貯金の金利上昇
メガバンクが普通預金金利を引き上げ
- △ 債券の価格下落、利回り上昇
既存の債券は価格が下がり、利回りでメリット
- × 株価の下落
銀行株にはメリットあり
- 物価高の抑制
物価上昇率が鈍化することも
- 生命保険の予定利率上昇
大手生命保険会社が年金保険などを40年ぶりに引き上げ
- × 住宅ローンの金利負担増
大手銀行が変動ローン金利の基準を17年ぶりに引き上げ
- × 企業の資金調達のコストが増える
大手銀行が短期プライムレートを引き上げ
- △ 円高ドル安の進展
日米金利差縮小は円高要因だが、トランプ政権で先行き不透明

金利について知る

金利とは？

「金利」といってもさまざまであり、身近な金利でいえば、預金金利や住宅ローン金利、あるいは銀行貸し出しの基準となるプライムレートなどです。基本的に金融機関が水準を決めて、利用者がそれを受け入れることによって成立します。ただし、金融機関が勝手にその水準を決めるのではなく、基準となる金利があります。これを「市場金利」といいます。市場金利は、金融市場で金融機関や投資家などがお金の貸し借りを行う中で、自然と形成される金利です。

金利上昇すれば
不景気
物価下落
円高
株価下落
債券下落

金利低下すれば
好景気
物価上昇
円安
株価高騰
債券高騰

*あくまで原則であり、これと反対のケースもあります

金利は「お金の値段」ともいえるもので、基本的には需給によって、その水準が変わります。景気が良くなり、資金の借入れ需要が強くなれば、金利は上がり、景気悪化で、借入れ需要が減ると金利は下がります。そうした市場金利の変動を能動的にコントロールするために設定されるのが「政策金利」です。先進国において、その決定を担っているのが、中央銀行であり、日本では日本銀行です。

中央銀行では、景気が過熱してインフレ懸念が強まると、政策金利を高め、引き上げ、経済活動を抑制します。逆に景気が低迷し、デフレ懸念が強まると、政策金利を引き上げて、経済に刺激を与えます。一般的に金利は、政策金利↓市場金利↓身近な金利、というルートで波及していきます。



金利が上がると債券価格は下がる!?

「金利」を学ぶには、債券の基礎知識が必要です。債券と言っても「国債」「地方債」「社債」「外債」まで様々です。いわば国や企業が資金調達するため発行する「借用証書」のようなものです。債券には発行市場で新たに発行される「新発債」とすでに発行され流通市場で流通する「既発債」があり、投資家は満期以前でも既発行債を自由に売買できます。債券には価格変動リスクや流動性リスク、信用リスクなどがあり、特に信用力の低い発行者が発行する債券の利子は相対的に高くなります。購入時にはここは十分に注意すべきです。

通常、債券を買う際には、金利が低い債券より、金利が高い債券を選ぶのが原則です。例えば、昨年発行された金利5%の債券よりも、今年、金利の高い7%の債券が発行された場合、多くの投資家は金利の高い方を選ぶので、金利が低い5%の債券の人氣がなくなるので売られる。そうなるとう価格を下げて売られることになります。つまりこれが一般的にいわれる金利が上がれば債券が下がるということなのです。

金利が上がると株は下がる!?

「金利が上がると株は下がる」は投資の世界ではよくある重要なポイントのひとつです。その理由として、「金利上昇で企業の利払い負担が増加し収益が圧迫される」「借り入れコストが高まるので自動車や住宅関連の個人消費が減速する」などがあり、またそれと並行して、「安全資産である国債の金利上昇が、リスク性資産である株よりも魅力的である」ということもあります。つまり長期金利が十分すぎるほど高いと、投資家はリスクなしに安全にリターンを得ることができると、あえてリスクのある株に投資する意味がないと思うでしょう。しかし、アメリカでは、国債の金利が上がってもNYダウ、S&P500、ナスダックは上昇、最高値にありました。これは「安全資産である国債の金利が上がって、相対的に株の魅力が下がっても、それを上回って企業収益の拡大の期待が大きい」と感じられるからです。このように必ず金利上昇が株価下落につながるわけではない。米国のように金利上昇と株価上昇が併存することもあります。

ドルコスト平均法を知る

長期的な資産形成に活用される投資方法に「ドルコスト平均法」があります。決まった金額を決まったタイミングで長期期間投資することで、価格変動によるリスクを抑える効果が期待できます。

ドルコスト平均法とは、投資にかかる時間と金額を分散する投資方法のことで、価格が変動する金融商品を「定額」「定期的」「長期的」に購入していく方法です。一度にすべてを投資するわけではなく、資金を分割して定期的に投資することから「定額購入法」とも言われています。投資金額を毎回定額にすることで、価格が低いときは購入口数が多くなり、反対に価格が高いときは購入口数が少なくなります。毎月定額購入すると、購入単価を平均化する効果が期待できます。そのため一括投資よりもドルコスト平均法のほうが、リスクに強く、長期的な資産形成に適している投資方法といえます。

ドルコスト平均法の4つのメリット

リスクを軽減できる

毎月一定金額を長期間にわたり投資すると、一括投資よりも損失するリスクを軽減する可能性があります。

タイミングを選ばず始めやすい

ドルコスト平均法では、購入単価が平均化されていくため、購入するタイミングを慎重に検討しなくて良いというメリットがあります。思い立った時に、いつでも始められます。

初心者でも挑戦しやすい

ドルコスト平均法では、取引開始時に自分で購入金額や購入期間を決めるため、初心者でも挑戦しやすい投資方法です。毎月の投資金額や投資期間を決めれば、あとは自動的に買い付けを行うことができるので株価の読みなどの高度なテクニックがなくても取引できます。

少額からはじめられる

ドルコスト平均法では、毎月決まった金額を投資していく方法なので、投資を始める際にまとまった資金を用意する必要がありません。一括投資の場合は、開始する際に投資金額の全額を用意しなくてはなりませんが、ドルコスト平均法は無理のない金額で少額から始められます。



ドルコスト平均法の2つのデメリット

手数料の負担が大きくなる可能性がある

定期的な購入を繰り返すドルコスト平均法では、取引の度に手数料が発生するため、投資期間が長期に及ぶほど手数料の支払い負担が大きくなる可能性があります。一括投資であれば手数料は、購入時の1回で済むため、総額でみるとドルコスト平均法の方が手数料が高額になる場合もあります。

短期での投資にはあまり向いていない

ドルコスト平均法は定期・分散・長期で購入することで、時間をかけて資産を増やしていく投資手法です。そのため、資産が形成されるまでにはある程度の期間が必要となり、短期間で大きなリターンを得たい人にはあまり向いていないでしょう。



これから始める

40代50代の資産形成

40代は収入が安定する半面、子どもがいれば教育負担が重くなる年代です。また、自身の老後資金も考えないといけない年代でもあります。生活予備費はしっかりキープし、子どもが中学校を卒業するまでに教育資金の用途を付けましょう。教育資金の用途が付いたら、老後への資産形成おこなったり、親の介護問題に向けての準備を行うことも大事です。

50代は一般的に収入は高いものの、子どもが大学生で教育費がピークを迎えている可能性もあります。人によっては、親の相続が発生したり、住宅ローンの残債が気になったりします。生活予備費は生活費3か月分をしっかりとキープしつつ、老後資金準備のラストスパートとしてペースアップすることをおすすめします。



品質アンケートにご協力お願いします

日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。株式会社ベストプランニングへのお客様の声・ご不満・お客様対応に関する要望等がございましたら、弊社へご連絡いただけると幸いです。今後のサービス及び品質向上に役立てたいと思っております。

アンケートへのご回答はこちらからお願いします



熱中症を知る



熱中症とは、暑さや熱によって体に障害が起きることをいいます。軽症の場合は立ちくらみや目眩、こむら返りなどの症状のみですが、ひどくなると頭痛や嘔吐、高体温、さらには痙攣や意識障害などの症状が出て、時には死に至ることもあります。

炎天下や蒸し暑い体育館などで運動や作業を行うと、体温を下げるために必要な汗をかく機能が追いつかないために、体温が上がってしまうだけでなく、体の水分や塩分が失われて熱中症が進行します。炎天下や風通しの悪い屋内で運動や作業をする際には、気温や湿度に注意し、水分と塩分をこまめに摂ることが大切です。

近年は、屋内で日常生活を送っているだけで発生する熱中症が、特に高齢者で増えています。加齢によって、暑さやのどの渇きを感じにくくなったり、汗をかく能力が低くなるために、気づかないうちに熱中症が進行します。水分や塩分をこまめに摂るほか、家屋の風通しをよくしたり、適宜、エアコンを使用するなどの注意が必要です。一人暮らしの高齢者や、認知症や心臓病などの持病のある高齢者の場合は特に注意してください。

環境省の「熱中症予防情報サイト」で注意喚起されている時には、十分な対策をとってください



熱中症予防情報サイト



運動中の心停止

運動中の心停止は人前で起こることが多く、電気ショックが効果的で、適切に対応すれば後遺症が現れることが少ないという特徴があります。児童・生徒が学校内で心停止になるのも運動中がほとんどです。マラソンやジョギング、サイクリング中などでは、心臓に負担がかかることが一因です。また、ゴルフやゲートボールなどでは、精神的な緊張が心停止のリスクを高めると考えられています。

運動中に発生する心停止の特徴的なものとして「心臓震盪」があります。これは野球やサッカーなどのボールやこぶし、肘などが胸に衝突し、その衝撃が心臓に加わって不整脈を起こして生じる心停止です。運動中の心停止を予防するために、体調が悪いときの無理な運動は避けてください。児童・生徒で学校検診の際に何らかの異常を指摘されている場合には、学校医などの助言に従って運動制限をする等の対策が必要なこともあります。



AED 設置場所地図